

1学期の出来事より① 6月「いじめ根絶強化月間」について

今年度の1学期は、なかなか学校外の仕事が忙しかったのか、自分が思う程、学校だよりを配信することができませんでした。本当は1学期の中で、各ご家庭にお伝えしたかった子どもたちのがんばり等がいっぱいあったので、私の個人メモには、いっぱいネタがあったのです。しかし、なかなか配信ができませんでした。じゃあ、どうするかと考えたのですが、せっかくなので、夏休み中でも学校だよりを出そうと決めました(笑) 今まで誰もしてこなかったようなことですが、メール配信と添付資料の組み合わせによってデジタルでの配信ができる時代です。せっかくなのでやることにしました。よろしくお願ひ致します。

その第1弾は、6月の学校朝会についてです。(^^♪

6月1日(木)の全校朝会では、「いじめ根絶」の講話をしました。その時のお話をしたいと思います。毎年書いていますが、6月の「いじめ根絶月間」では、熊本市内のすべての学校でいじめをなくすための取組みが行われます。本荘小でも毎年取り組んでいます。今年度は3年目なので、どんな話をしようかと考えました。悩んだ末に、一冊の本を紹介することに決めました。

題名は「どうしてぼくをいじめるの?」という本です。

(参考: [どうしてぼくをいじめるの? | ルイス・サッカー、むかいながまさ、はら るい | 絵本ナビ: レビュー・通販 \(ehonnavi.net\)](#))

どんな本かといえますと、作品紹介では、

マーヴィンはいじめっ子に「鼻をほじっていた」といってからかわれる。「ほじってない」といえばいほど、いじめがいじめを呼んで、マーヴィンはクラスから孤立していく。追いつめられたマーヴィンは、このピンチをどう切りぬけるのか? 子どもたちがおもしろ半分に行動する様子が、いじめのこわさをリアルに伝えていきます。いっしょになやんでくれるすてきな家族、妹のなにげない言葉で一変する意外な展開、ノース先生の心にしみる最後の一言など、読みだしたらとまらず、読み終えるとほろこしい気持ちになるお話です。(「文研出版編集部からのおすすめ」より)

と書いてあります。いじめの理不尽さやどんな理由があろうともいじめが許されないことがわかる本です。そして、いじめを解決するためには、家族の力や先生の力が必要であること、一人で悩まずきちんと相談することの大切さを学ぶことができる本です。しかも、本校の図書室にある本ですので、学校朝会で紹介しました。詳しい内容は、校長先生の虫眼鏡に書いておきます。

さらに、今年度もいじめを根絶するための名刺を作りました。いつものように、この名刺の裏には、「わたしは、いじめをしません、させません、ゆるしません。」という「誓いの言葉」を記しています。全校朝会の中でも、「校長先生のこの考えに賛同する人は、大切な『いじめをなくす取組みを行う仲間』なので、もらいに来てください。」と伝えました。子どもたちは、すぐに校長室にもらいに来ました。確か5年生が一番初めにやってきました。

毎年、お話ししているのですが、大切なのは、いじめをなくすことを一人一人が意識することです。「いじめをなくすため」にお子さんがもらいに来てくれるので、それが一番だと校長は考えています。紹介した本でも描かれていますが、いじめは、それを見ているまわりの人にも、責任があります。いじめをする人にならないためには、どうしたらいいのでしょうか。そこを考えることのできる子どもに育ててほしいと思います。いつも言っていることですが、「仲間を大切にすること」や「自分以外の誰かのことを思いやること」の大切さが共有できる本荘小でありたいと考えています。そのための6月の学校朝会でした。(校長) 裏面へ

どうして
ぼくを
いじめるの?

ルイス・サッカー・むかい
はら なるい | 著
むかいながまさ | 絵



校長先生の虫眼鏡 6月学校朝会の全文

6月いじめ根絶月間 校長講話

おはようございます。学校朝会では、いつも大きな画面を見てもらいながらお話をしていましたが、今日は、大きな画面はありません。そのかわりに、この本と校長先生の表情を見ながらお話を聞いてください。

6月になりました。この6月は「いじめ根絶強化月間」です。毎年、6月の学校朝会は「いじめをなくすためのお話」をするのですが、今日は、この本を紹介します。「どうしてぼくをいじめるの？」(文研出版)です。

この話の中で、主人公のマーヴィンは、やってないことをやったと言われてみんなからいじめられていきます。何をやったと言われたのでしょうか。それは、「鼻をほじった」です。ボール投げのゲームをしていて、負けた子どもクレランスと言いますが、その子が負けた腹いせに、勝ったマーヴィンに対して「鼻をほじる汚いやつだ」とうそのからかいの言葉をかけたのです。でも、このことで、彼はまわりの子どもたちからいじめられるようになります。「汚い」、「そばによるな」、「お弁当に鼻くそが入っていてそれを食べた」、からかいの言葉は彼を追い詰めていきます。では、なぜクレランスはマーヴィンをいじめたのでしょうか？誰かわかる？人間には、いじめを起こす5つの心があるのです。

①自分さえよければよいというわがままな心、②ちょっとしたことでかっとなる心、③自分よりもできない人を見て喜んだり安心したりする心、④自分よりも他の人が上だと思った時に嫉妬してしまう心、⑤自分たちと違うことを嫌がる心。この心は誰もが持っている心ですよね。校長先生にもあります。でも!!だからと言って他の人をいじめることは許しません。やってもないのに鼻をほじったと言ったり、やってないのに汚いと言いだしたり。絶対に許しません。いじめることは卑怯なことだからです。いじめることは人の心を大切にしない行動だからです。校長先生だけでなく、本荘小学校の先生たちは、ずっと前から、みな同じ気持ちでした。さあ、いじめられたマーヴィンはどうなったと思いますか？

マーヴィンは悲しい気持ちで過ごしていました。これってあんまりではないですか。何も悪いこともしていないのに、なぜいじめられないといけなのですか？どうすればいじめが起こらなかったのでしょうか。もし、他の人が今回のようなことを見ていた時に、止めていたら、「しないほうがいいよ」と注意していたらどうだったでしょうか。この本に出てくる人たちは、みんな止めるどころか、ありもないことを信じて、いや信じたふりをして、人をからかっていきます。あなた方は、自分がそんな気持ちになったときに止めることができますか？自分の心が最初に言った5つの心になっていないかどうかは、自分の発する言葉でわかります。人のことを悪く言ったり、笑ったり、文句ばかり言ったり…そんな言葉を口にしてる人は、5つの心になっていますよね。「しね」「きも」「うざ」こんな言葉を使っている人がいるのではないですか？使ってはいませんか？

その後のマーヴィンは、家族のアドバイスで、相手を傷つけることなく、いじめに立ち向かっていきます。マーヴィンは家族に相談をしたのです。いじめを受けたことをちゃんと話すことができたので、いじめを解決できたのです。みなさんも、同じようなことになった時には、相談をしないとイケません。友達でもいいです。先生方も、家族の人も必ず、近くの人や相談窓口にご相談をしてくださいね。校長室もちろんOKです。校長先生はいつも苦しい立場の人の味方です。今年もいじめをなくすための名刺をつくります。出来たら教えますので、もらいに来てくださいね。いじめをなくす人がどの学校よりも多くなるようにしましょう。

6月もいじめをなくすため、思いやりの心で笑顔の本荘小にしましょう。これで、校長先生のお話を終わります。

この名刺は、私が子どもたちに配ったものです。熊本県や熊本市でも、いじめのニュースや新聞報道は後を絶ちません。いじめは決してあってはならないことです。子どもたちには、そのことを心に刻んでほしいと思っています。



【表】

「思いやり」の心でいじめをなくします。
わたしは、いじめをしません、
させません、ゆるしません。
さんせいするひとは、みんな、なかまで。

【裏】